

イチキ大工通信

NO.5

お問合せ

mobile:080 (1059) 1426

mail:info@ichiki-daiku.com

いよいよ工事着工を迎えました。これからの子どもたちの学童生活を思い浮かべながら建てていきたいと思えます。とても楽しみです！

さて、工事着工にあたり、先日地鎮祭を行いました。なかなか経験することのない地鎮祭を体験し、家づくりの一步を子どもたちも感じる日になったのではないのでしょうか。当日は「五社稲荷神社（鎌倉女子大奥）」から神主さんに来ていただきました。事前をお願いをしたところ、六年生だけでも実際に経験できるように、供える玉串を多めに持ってきてくださいました。

経験した6年生からは、「いよいよ工事が始まるんだなと思って、楽しみになった！」、「今日は参加できてよかった！」などと感想をもらいました。子どもたちが目の前で家づくりを見られるこの機会を大切に、引き続き安全に工事を進めていきたいと思えます。



5. 6年生が玉串奉奠（たまぐしほうてん）を経験させてもらいました。

地鎮祭前に建築のお仕事の経験がある保護者の方から、玉串の供え方を教わり、練習しました。緊張した様子の子もたちでしたが、とても派手に成し遂げていましたよ！さすがですね！

玉串の備え方を練習中！！



「地鎮の儀（鍬入れ）」

施主・施工業者・設計者がそれぞれ鎌や鍬（くわ）をもって、「エイエイエイ」と声を出し、砂山に鍬入れをします。





神主さんに、「日本の文化では、海にも山にも神様がいて、地鎮祭とは、土地の神様にこの土地に新しく建物を建ててもいいという許しを得るためのお祭りです。」と教えてもらいました。その話を聞くことで、特に高学年の子どもたちは思いをもって参加していたようです。これからの工事にも興味を持っている様子なので、子どもたちの喜ぶ顔を励みに今後の作業も頑張ります！

設計士さんの紹介



ストラクトス 大島さん

今回の建替えでは、URとの協議や一団地認定など予定外のことが次々と起こり、対応や確認申請を通すことがとても困難でした。そんな中で助けてくださったのが設計の大島さんです。次々と出てくる課題に対して親身に動いてくださり、申請の際には検査機関との協議もしてくださったおかげで、無事に確認申請を通すことが出来ました。

当初、学童の設計自体は市来が話を進めていましたが、途中から大島さんにも入っていただき、進めてきました。この後も大島さんは学童の建て替えを見守ってくださいます。

大島さんの設計した家をほんの少し紹介します！どの家も心地よく、素敵な家ばかりです。



～一団地認定って何！？～

普通は、一つの敷地には一つの建物しか建ててはいけなくなっています。しかし、学童保育所は、くでん団地の中に複数建っている建物のうちの一つであり、特別な申請をし、認定を受けないと建てる事ができません。この一団地認定のために、防火などの基準が厳しく、今回建てようとしている建物で申請することに大変苦戦しました。大島さんも一緒に何度も協議し説明をしてくださり、建て替えが可能となったのです。

